『ルビコン川を渡る』

2024 年 8 月 17 日　本多幸吉

ハイネ「ルビコン川を渡る」

『ルビコン川を渡る』はカエサルの決断を表す言葉として、皆様ご存じですね。8 月 14 日に開催の新三木会講演『守屋壽コレクションを俯瞰する』で、ペリー艦隊の画家ハイネによる『ルビコン川を渡る』が示されました。船が海に浮かんでいます。ペリーの決断を示すものでしょう。

一橋前期 2 年を過ごした一橋寮の寮歌 『紫紺の闇』には、「濁流ルビコン渡らんと、綱(ともづな)解きし三寮よ」との歌詞があります。この二つの事実から、「ルビコン川は大きな川」と想像する人が多いのではないでしょうか。ルビコンは、イタリア語でルビコーネといい、ワインの名前にもあります。

筆者は、1980 年に夏休みでイタリアのリミニに宿泊し、ビザンチン・モザイク画で有名なラベンナへ行くのに鉄道を使いました。列車は途中で「ルビコン川」を鉄橋で渡ります。アドリア海に近い地点で下流。でも川幅は 1～3メートル。これには驚きました。

で、調べてみると、このルビコン川は旧名フィミチーノ川で、ムッソリーニが、「外人にルビコン川の場所を答えられるように」強引に改名させたとのこと。しかし、全くのデタラメではなく、3 世紀の地図を中世に模写したものに、ここがルビコン川とされているのが根拠だといいます。ルビコン川が大体この辺ということは分っているが、場所の特定には諸説があり、他に「おらが国さ」の「ルビコン川」が二つあるそうです。ピシャテッロ川とウーゾ川。ピシャレット川はフィミチーノ川よりもっと川幅が狭い。ウーゾ川は川幅が広いが、アウグッスス時代の橋の遺跡があるとのことで、古代ローマ時代でも船でなくても渡れたようおです。

「ルビコン川を渡る」は「賽は投げられた」と同じく、引き返さない決意を表す言葉だから、川幅など問題ではなく、川が「境界線」であることが重要なのでしょうけれどね。

フィミチーノ川

ピシャテッロ川

ウーゾ川

余談になりますが、筆者はシリアでイラク国境近くに出張し、ユーフラテス川を見たことがあります。驚くほどではないが、黄河やナイル川が今でも川幅が広いことを思うと、「狭いな」と思いました。年とともに干上がったのでしょう。なお、イラク領にあるティグリス川は見たことがありません。

以上